

法人単位貸借対照表

令和2年3月31日現在

（単位：円）

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	175,004,144	163,537,725	11,466,419	流動負債	15,839,981	16,302,822	△ 462,841
現金預金	125,580,149	117,031,750	8,548,399	短期運営資金借入金	0	0	0
有価証券	0	0	0	事業未払金	6,039,981	5,336,001	703,980
事業未収金	49,423,995	46,505,975	2,918,020	その他の未払金	500,000	0	500,000
未収金	0	0	0	未払費用	0	0	0
未収補助金	0	0	0	預り金	0	0	0
未収収益	0	0	0	職員預り金	0	1,466,821	△ 1,466,821
立替金	0	0	0	仮受金	0	0	0
前払金	0	0	0	賞与引当金	9,300,000	9,500,000	△ 200,000
前払費用	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
1年以内回収予定長期貸付金	0	0	0				
短期貸付金	0	0	0	固定負債	6,582,921	6,155,121	427,800
仮払金	0	0	0	設備資金借入金	0	0	0
その他の流動資産	0	0	0	長期運営資金借入金	0	0	0
固定資産	587,937,753	583,538,184	4,399,569	リース債務	0	0	0
基本財産	271,483,275	277,624,768	△ 6,141,493	退職給付引当金	6,582,921	6,155,121	427,800
土地	65,959,462	65,959,462	0	長期未払金	0	0	0
建物	204,523,813	210,665,306	△ 6,141,493	長期預り金	0	0	0
定期預金	1,000,000	1,000,000	0	その他の固定負債	0	0	0
投資有価証券	0	0	0	負債の部合計	22,422,902	22,457,943	△ 35,041
その他の固定資産	316,454,478	305,913,416	10,541,062	純資産の部			
土地	0	0	0	基本金	58,453,000	58,453,000	0
建物	3	10,743,667	△ 10,743,664	国庫補助金等特別積立金	103,551,864	110,367,229	△ 6,815,365
構築物	6,659,612	4,030,665	2,628,947	その他の積立金	290,115,398	274,048,002	16,067,396
機械及び装置	1,261,767	1,633,081	△ 371,314	人件費積立金	40,000,000	35,000,000	5,000,000
車輛運搬具	272,532	506,127	△ 233,595	施設整備積立金	224,000,000	209,000,000	15,000,000
器具及び備品	7,168,652	6,515,368	653,284	移行時特別積立金	26,115,398	30,048,002	△ 3,932,604
建設仮勘定	1,879,000	0	1,879,000	次期繰越活動増減差額	288,398,733	281,749,735	6,648,998
有形リース資産	0	0	0	(うち当期活動増減差額)	22,716,394	41,745,409	△ 19,029,015
権利	751,000	751,000	0	純資産の部合計	740,518,995	724,617,966	15,901,029
ソフトウェア	0	0	0				
無形リース資産	0	0	0	負債及び純資産の部合計	762,941,897	747,075,909	15,865,988
長期貸付金	0	0	0				
退職給付引当資産	6,582,921	6,155,121	427,800				
長期預り金積立資産	0	0	0				
人件費積立資産	40,000,000	35,000,000	5,000,000				
施設整備積立資産	224,000,000	209,000,000	15,000,000				
移行時特別積立資産	26,115,398	30,048,002	△ 3,932,604				
その他の固定資産	1,763,593	1,530,385	233,208				
資産の部合計	762,941,897	747,075,909	15,865,988				

※本様式は、勘定科目の大区分及び中区分を記載するが、必要のない中区分の勘定科目は省略することができる。

※勘定科目の中区分についてはやむを得ない場合、適当な科目を追加できるものとする。